

## 令和元年度第1回役員会 会議報告

日 時 : 令和元年5月23日(木) 13時30分～16時30分

場 所 : 寒川総合図書館

出席者 : 16名

○役員(13名)

高木会長、井口副会長、佐藤副会長、工藤理事(煙山代理)、徳野理事、  
平岡理事、山口理事(綿引代理)、辻川理事、青木理事、谷監事、小川参与、  
小松参与、定兼参与

○随行(2名)

京都府立京都学・歴彩館、広島県立文書館

○事務局(1名)

### 報 告

#### (1) 平成30年度第1回役員会会議報告

会長事務局より報告。全史料協ウェブサイトに掲載済み。

#### (2) 会員の現況及び平成30年度会費納入状況報告

会長事務局より報告。

- ・平成31年3月31日時点で、機関会員135機関、個人会員285名、合計420会員。前年度末の会員数と比較して、機関会員が1機関減(入会3機関、退会機関)、個人会員が6名減(入会7名、退会13名)である。
- ・平成31年4月30日時点で機関会員が2機関(新居浜市史編さん室、(株)アルメディア)、個人会員が6名入会している。

(質疑・意見等)

質疑等なし。

#### (3) 各委員会・地域部会報告

平成31年2月15日から令和元年5月23日までの活動報告。特記事項は以下のとおり。

##### ○大会・研修委員会

- ・平成30年度第4回委員会を2月に開催し、安曇野大会の方向性を検討した。長野県内は市町村立の公文書館設置の動きが活発である。この好事例を全国に発信するとともに、理想的な市町村の文書館像、自治体全体として公文書・地域資料をどのように捉えるのかなどを考える場としたい。
- ・4月19日に事務局を引き継いだ。
- ・令和元年度第1回委員会は、5月24日に開催する予定。

##### ○調査・研究委員会

- ・令和元年度第1回委員会は5月17日に開催した。

- ・第23期調査・研究委員会のテーマは「市町村の公文書館」とする。調査の対象地域は、四国地方とその近県。調査方法は、アンケート調査と実地調査（調査先は未定）を併せて行う予定。平成の大合併で合併した自治体、草の根文書館を設置したが担い手が不在となった自治体、被災にあった自治体など、いくつかパターン決めて調査を実施する予定。
- ・公文書機能普及セミナーは山形県で開催する。今後、先方の山形県と内容および日程の折衝に入る。
- ・全史料協が災害対応として動く基準は、地震は震度5以上、大雨は特別警戒警報発令時である。災害時に全史料協はその都度、適宜対応してきた。有事に際しては、その時々への対応にならざるを得ないと思うが、どのようなルート・形で処理していくのが最善なのかを委員会で検討していく。

#### ○広報・広聴委員会

- ・ホームページを運営するためにプロバイダ契約を結んだ。
- ・令和元年度第1回委員会を5月17日に開催し、今年度の会誌・会報の内容を中心に検討した。会報106号の原稿依頼については、総会までには整理する。

#### ○関東部会

- ・平成31年3月に役員会・定例研究会を開催した。同月会報を刊行した。
- ・5月29日に総会を開催する予定。
- ・現行の規定においては、退会の規定が設けられていない。今年度、規定の改正を検討する。

#### ○近畿部会

- ・平成31年2月に運営委員会を開催し、令和元年度の委員の人選および例会企画を検討した。5月31日にも運営委員会・役員会を開催する。
- ・6月15日の総会は、京都府立京都学・歴彩館で開催する。瀬畑源氏に講演をいただく。

### 協 議

#### (1) 第23期（令和元・2年度）役員・委員の選任について

会長事務局より説明。

#### (2) 平成30年度事業報告及び決算報告について

平成30年度事業報告は各事務局より報告。特記事項は以下のとおり。

##### ○会長事務局

- ・総会と大会を分離して実施した。総会関連行事としてロバートキャンベル氏の特別講演会を開催した。
- ・役員会は2回開催した。
- ・アーカイブズ関係機関協議会の事務局を務めた。

##### ○副会長事務局

- ・4月末に前事務局の北海道立文書館より引き継ぎを行った。
- ・海外への送金制度が変更になったことにより、昨年度のICAの会費が未納となっている。

(質疑・意見等)

- ・副会長事務局より I C A の事務局に対して請求書の発行を依頼すべきである。  
→依頼するつもりである。

#### ○大会・研修委員会

- ・4回の委員会を開催した。
- ・沖縄大会と例年の大会の違いの一つとして沖縄県コンベンションビューローの助成金を活用したことがあげられる。しかし、その事務は繁雑であった。
- ・3月末に国立公文書館加藤館長に安曇野大会の記念講演会を依頼し内諾を得た。正式な依頼文は今後作成する。

#### ○調査・研究委員会

- ・4回の委員会を開催した。
- ・沖縄大会で調査研究の成果を報告した。
- ・公文書館機能普及セミナーIN 静岡を開催した。
- ・昨年度は各地で大規模災害が発生し、その対応をした。結果はホームページで公開している。
- ・後援承認の手続きを行った。今年度もすでに何件か依頼がきている。

#### ○広報・広聴委員会

- ・3回の委員会を開催した。
- ・会報 104・105 号、会誌 29 号を刊行した。
- ・掲載後 1 年を経過した会誌は、27 号以降 J-stage に登載することとしており、昨年度は 28 号を登載した。

#### ○関東部会

- ・6月に総会・役員会を、3月に第2回役員会を開催した。
- ・部会の運営は運営委員会が担っている。委員会は2回開催した。
- ・295～299 回の 5 回の例会を開催。5 回の例会への参加者は計 181 名。
- ・会報『アーキビスト』90・91 号を発行した。
- ・現在の会員数 174 会員。昨年度より機関会員が 1 機関増加した。

#### ○近畿部会

- ・5月に総会、役員会を開催した。
- ・運営委員会は2回開催し、例会企画を検討した。
- ・145 回～150 回の 6 回の例会を開催した。例会の事前告知は月報で、結果報告は会報で行っており、いずれも WEB サイトに掲載し誰でも閲覧できるようにしている。
- ・現在の会員数は、機関会員 15 機関、個人会員 67 名、計 82 会員。

#### ○平成 30 年度決算報告（会長事務局）

- ・収支決算額は、総収入額 12,038,201 円、総支出額 8,996,526 円で差引 3,041,675 円となる。この残額が令和元年度への繰越となる。

### (3) 平成 30 年度の監査について

- ・谷監事より適正に執行されていることが報告された。

・平成 30 年度の事業報告および決算報告は了承された。

・監事より以下の参考意見が出された。

旅費の支出においてパッケージ旅行を利用している事例が確認できる一方で、J R の往復割引が適用される行程に対して、通常料金で支出している事例が確認できる。当会の旅費規程にのっとり、割引などの活用に留意されたい。

(質疑・意見等)

・監事の参考意見は、旅費についてもっと合理的に執行し、支出の削減につながるという趣旨か。  
→そのとおりである。

・当市では公務出張時には日当が支給されるが、全史料協は日当の支給をしない。公務出張の旅費に関して、他団体からの支給される額と、本市規程の旅費に差額がある場合、足りない額については本市が補填をすることとなっている。派遣元からは、職員の不利益にならないように厳守することが求められている。

・全史料協の公務旅費は、派遣元団体が旅費を支給しない場合に、全史料協が旅費を支給するという趣旨で始まった。差額を派遣元が支給するのであれば、それで良いのではないか。

→旅費規程相当額が支給されないことが、派遣元で問題となっている。派遣元の団体の旅費規程に準拠して旅費を支給すべきではないか。全史料協の役員のみ手が減っている理由が、ここにあるのではないか。

※結論

自治体によって規則が異なり個別対応が必要となってくる。よく検討して、次回、役員会で問題提起をしたい。

・収入の部で機関会員が 140 となっている。会員数の現況では、機関会員は 139 である。この違いが何か。

→平成 30 年度に会費を納入してから脱退した機関会員があった。

#### (4) 令和元年度事業計画案及び予算案について

各事務局・委員会より令和元年度の事業計画案の説明があった。特記事項は以下のとおり。

##### ○会長事務局

・総会は令和元年 6 月学習院大学で開催する。同日、高埜利彦氏による記念講演会も開催する予定。

・役員会は 2 回開催する予定。

・次期役員会体制の調整を行う。

##### ○副会長事務局

・平成 30 年度未納となっている I C A の会費を納入する。

・国際会議の情報を会員に広報する。

##### ○大会・研修委員会

・5 月 24 日に第 1 回委員会を開催する。

・7 月 16・17 日に第 2 回委員会を安曇野で開催し、今年度および次年度の大会の内容について検討する。

## ○調査・研究委員会

- ・委員会を4回開催する。
- ・公文書館機能普及セミナー I N山形を11月に開催する予定であるが、山形県は公文書センターの移転にあわせて2月に開催したい意向である。日程および内容については今後調整していく。

## ○広報広聴委員会

- ・3回の委員会を開催する。
- ・会誌30号、会報106・107号を刊行する。

## ○令和元年度予算案を会長事務局より報告。

- ・収支決算額は、総収入額11,716,921円、総支出額10,054,675円で差引1,662,246円となる。  
(質疑・意見等)
- ・令和2年度・3年度の大会の予定を確認したい。  
→令和2年度は東北大学災害科学国際研究所(仙台市)、令和3年度は高知県と交渉している。
- ・国文学研究資料館主催令和2年度アーカイブズカレッジは、開催地および日程(島根県松江市で11月9日~14日)がほぼ確定している。全国大会の日程調整の際には留意していただきたい。  
→先方の都合もあるので確約はできないが調整を試みる。
- ・調査・研究委員会は、近年、学校アーカイブズ、災害アーカイブズをテーマに据えてきた。今回は、市町村アーカイブズがテーマである。その時々によりテーマ選定があってもよいのだが、全史料協として、前のテーマとのつながりなどをどのように理解すればよいのか。テーマの継続性を考慮した方がよいのではないか。また、テーマ設定について、各委員会の連携があってもよいのでは。  
→現状の任期制を考えると、長期的なテーマを設定しないかぎり対応できない。もし長期的なテーマを設定する場合は、調査・研究委員会で設定するのではなく、全史料協全体のコンセンサスを得なければならない。
- ・大会テーマを役員会の場で議論する必要があるのではないか。そしてその大会テーマをもとに各委員会は活動を展開するのがよいのではないか。
- ・各委員会の委員のなかには、継続して委員を務める方もいる。その点、各委員会内での継続性はその委員を中心に保たれている。委員会を超えた連携の場は役員会しかない。しかし役員会では、そのような議論はできない。そうすると地域部会のような運営委員会などを設置する仕組みが必要となるのではないか。
- ・事業計画には、全史料協が何のためにその事業を展開するのか説明するような前文が必要なのではないか。

## ※結論

- 今年度の総会資料として用意することはできないが、今日出された意見をもとに今後検討していく。
- ・令和元年度総会において、安曇野大会のテーマを発表するのか。  
→例年だと7月頃に大会テーマが決定するので、総会には間に合わないが、おおよその方向性は発表する。

## (5) 令和元年度大会について

大会研修委員会より説明。

- ・国立公文書館の加藤館長に安曇野大会記念講演の報告者を依頼した。選定理由は、大会の方向性と安曇野市の要望(市民が参加できる記念講演会)を勘案した結果である。
- ・会場は安曇野市豊科公民館。視察先は安曇野市文書館、松本市など周辺自治体の博物館施設を考えている。
- ・令和2年度の大会について  
災害をテーマとした大会を仙台で開催したいという構想が、大会研修委員会内にあった。その構想をもとに交渉を開始。宮城県公文書館は大会を引き受けるのが厳しいと回答。そこで東北大学災害科学国際研究所に依頼したところ了承していただいた。現在、東北大学災害科学国際研究所と東北大学文書館との共催、東北大学は後援ということで話を進めている。近々、東北大学に直接、挨拶をしに行く予定。7月の大会研修委員会には、東北大学の方々にオブザーバとして参加してもらいたいと考えている。

(質疑・意見等)

- ・長野県立歴史館は、どの程度協力していただけるのか。  
→同館館長が来賓として大会に参加する予定。なお、同館館長には報告をしてもらえよう調整している。
- ・現在、長野県立歴史館館長が長野県史料保存活用連絡協議会の会長を務めている。同協議会へ共催をお願いしようとしている。

## 4 その他

### (1) 令和元年度総会について

会長事務局より説明。

(質疑・意見等)

- ・議長は二人たてないのか。  
→長いときは2人をお願いしたこともあったが、今回は一人で行う。

### (2) アーキビスト認証準備委員会について

会長より説明。

前回の役員会で定兼参与が全史料を代表して委員会に参加している。

定兼参与より説明。

平成31年3月に1回目の会合が開催された。自己紹介、意見交換、名称をどうするか、どういう人を認証するのか、審査料をどうするのかなどが議題となった。令和元年5月28日に2回目の会合が開催される予定。なお、認証制度は、11月まで議論し、方向性をまとめる予定。

(質疑・意見等)

- ・全史料協から参加することになった経緯や、参加していることを会員各位に周知する必要があるのではないか。  
→総会で報告する。

- ・日本アーカイブズ学会の登録アーキビストとの関係は。  
→先般国立公文書館が策定した「アーキビストの職務基準書」に基づいて、国民共有の知的資源である公文書等の適正な管理を支え、かつ永続的な保存と利用を確かなものとする専門職としての信頼性・専門性を確保するために認証制度を創設しようとしているもので、日本アーカイブズ学会の会員を対象にした登録アーキビストとは別物である。なお、準備委員会の配布資料と議事記録は逐次国立公文書館のホームページに掲載することになっているので参照されたい。

### (3) 次回の役員会について

会長より説明。

2月14日に寒川総合図書館で開催する。

### (4) その他

#### ①安曇野大会の役員の旅費について

会長より説明。

同大会に関しては、今のところ、理事・参与は登壇する予定（役割）がない。そうなると大会に参加する役員に旅費を支給する名目がない。役割は無いということでよいか。また、無い場合は旅費を支給しないということでよいか。

(質疑・意見等)

- ・会員表彰は実施しないのか。  
→平成30年度に会員表彰は改定され、令和元年4月から施行されている。しかし会員からの推薦方法や、表彰候補はどのように選出するのかなど手続の詳細は決まっていない。会長事務局で手続方法を検討し、次回の役員会に提示する。
- ・奨励賞をだすことは恒常的にやった方がよい。
- ・会長・副会長は、来賓対応などの役割がある。

※結論

安曇野大会における旅費は、会長・副会長以外の理事・参与へは支給しない。

#### ②令和2年度の総会の開催地について

会長より説明。

次年度も全国館長会議の日程にあわせて東京近郊で開催するつもりで、いくつか候補地を考えている。

(質疑・意見等)

- ・館長会議は東京で開催することは決定しているのか。  
→前年の秋頃に決定する。  
→東京都公文書館の新館が出来るのはいつか。来年の総会に東京都公文書館のリニューアルが間に合うなら、都公文書館を会場にするのもよい。

※結論

東京都公文書館も開催地の候補の一つとして検討する。

### ③貸倉庫について

会長より説明。

群馬県高崎市の高崎倉庫に全史料協の資料を保管している。会長事務局を群馬県が担当していた時に委託契約を結んだ。資料は、会長事務局の文書だと思われるが、目録も無く中身が分からない状態である。資料の内容を把握し、選別などを実施するなど、現状を改善したい。

(質疑・意見等)

- ・アーカイブズ研修の実習や、資料整理をしたい人たちの資料として提供するのはいかがか。  
→資料整理の場所、アルバイト代などを含めて検討する。
- ・広報・広聴委員会では、委員会の引き継ぎ資料として段ボール箱 42 箱（会誌・会報の保存版および在庫、委員会の引き継ぎ文書）あった。  
→会誌は売り物とはいえ、見切りをつける必要がある。
- ・デジタル化など紙資料の量を減らすという方策も考えた方がよい。

### ※結論

各事務局・各委員会の引き継ぎ資料の全体像を把握し、次回、役員会で検討する。